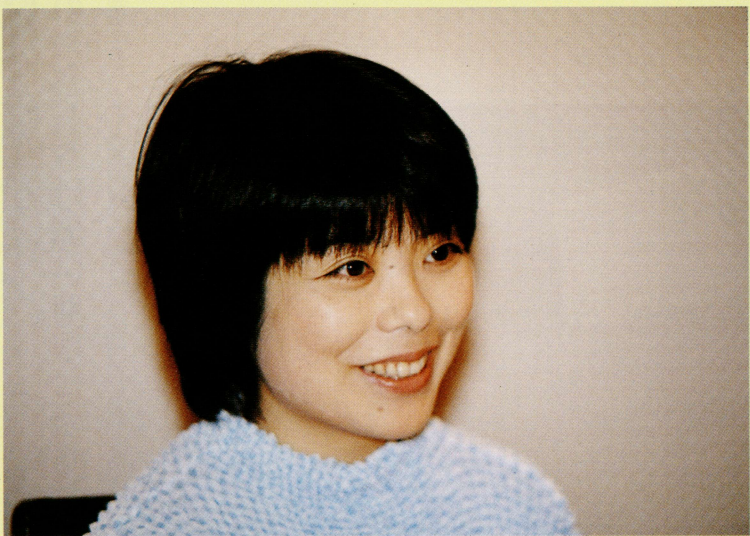


私にとって短歌は 生きていくことと共にあり 生きる」とそのものです

インタビュー



〔歌人〕 俵 万智 さん

たわら まち
1962年、大阪生まれ。85年、早稲田大学卒業。
神奈川県立橋本高校で国語教諭として89年まで勤務。
86年、「八月の朝」で角川短歌賞受賞。
87年、「サラダ記念日」で現代歌人協会賞受賞。
98年より共同募金のポスターに協力。ホームページの
なかでも赤い羽根をとりあげていただいている。
主な著書に、「サラダ記念日」、「チョコレート革命」、
「チョコレート語訳『みだれ髪』」など

——旅でいろいろなところへお出かけになっていますが。

二十代の頃、海外旅行は刺激があって好きでした。

フィリピン、インドへの旅では、

貧富の差というものを見ました。

子どもたちが遅しくて、生き生きしているんですね。学校に行けない子が多いんですが、すごく勉強したいと言う気持ちはあって、外国の援助のおかげで、学校に行けるようになったことを嬉しそうに話してくれました。日本の子どもは、学ぼうという環境に恵まれています。学校にいけることをこんなに嬉しく思ってくれることはないんじゃないかと思っています。

——この国の子どもも可愛くて、遅しくて、私たちが励まされる感じがしますね。

——「ちいさい旅 みつけた」というタイトルで「週刊朝日」に二年間連載されましたが……。

あの旅は、もう一度、日本をちゃんと歩いてみようと思つて始めたもの

のをいただいているような気がしました。

歌は短いですが、全部を説明できませんが、読む人が、さまざまに想像の羽根を広げて楽しめますよね。それが短歌の特徴だと思っています。私にとって短歌は、生きていくことと共にあり、生きることそのものなのです。

——今年もポスターにご協力いただいていますか。

ポスターの撮影場所には緑がいっぱいあって、子どもたちみんなはつらつとしていて、とても楽しいもの

でした。車イスを使ったのですが、最新式のもので、私も押してみました。軽く、かわいくて随分工夫されているんですね。ただ、値段がとても高いので、大変だなと思いました。ポスターの仕事に関わる前は、街頭募金に足を止めて募金をする側だったのですが、今では、街頭募金のボランティアさんを見かけます。「がんばってね」と言う気持ちになりますね。

のでした。

自分の育ったところだから、なんでもよく知っているような錯覚をもちますけれど、日本を丁寧に歩いてみますと、いろんな発見があったり、出会いがあったりで面白いですね。

数えきれないほどの人との出会い、モノとの出会い、風景との出会い。

なかでも、職人さんとの触れ合いは心に残りましたね。鬼瓦をつくる人、和ロウソクをつくる人、黄八丈をつくる人、この道一筋の人の言葉

ポスターの短歌

『赤い羽根 胸にともせる人に会う 小さな愛のあふれる季節』
共同募金を支える仲間のひとりとして
自然に浮かんだ歌だからと控えめに微笑む俵さん



は迫力がありますね。

——中央教育審議会の少子化と教育に関する小委員会委員として「シングルマザー」という選択を社会的に認めるべきだ」との意見を述べられていますか……

家族のモデル像があつて、それに人びとが合わせるのではなく、これからの時代、いろいろな家族があつていいのではないのでしょうか。

女性の結婚が遅い、結婚をしない、

それが少子化の原因だから、女性に結婚する気にさせればよい、結婚すれば子どもは産むものだと考えるのではなく、いろんな選択肢があつていいのではないのでしょうか。

——どんな生き方を選んでも尊重され、すべての子どもを「社会の宝」として育てる視点が重要だと思います。

——ご自身は、子どもについてどう思われますか。
私も恵まれれば欲しいなと思いま

すね。

自分の子ども、他人の子どもといふのではなく、子どもって可愛いですよ。子どもは未来を背負っていますし、いろんな可能性が広がりますからね。

高校の教師をしていた時は、毎年新しい生徒に出会えて楽しかったですね。

やはり人間が好きなんです。人と人のつながりは、私の歌の大きなテーマです。それが家族であつ

たり、友人であつたり、恋人であつたりしますが。

——九十八年から共同募金のポスターにご協力いただいていますか、あの短歌はとても素敵ですね。

『寒いね』と話しかければ「寒いね」と答える 人のいるあたたかさ』は、「サラダ記念日」の歌からポスターに採ってもらいました。あの歌はもと恋の歌なのですが、読む人によって、いろいろな受けとめもらえたみたいですね。母と子の小

さな会話とも、旅先で知らない人と「寒いね」「寒いですね」と話した触れ合いととらえてもいいですし、いろいろな場面であの歌を思い出してもらえるような感じがあるんです。

ですから、共同募金の方が読めば、お互いの小さな「たすけあい」といったふうに解釈されれば嬉しいですし、素敵な解釈だなあと思っていますね。——歌を通じて、俵さんから、やさしさや喜び・哀しみ、いろいろなも

聞き手 岡村 良子

(神奈川県共同募金会)